



八潮市長 大山 忍氏

市長のメッセージ

八潮市は、つくばエクスプレスで秋葉原駅^{あきはら}から最短17分の場所に位置し、都心の近くにあるながら、水辺にも恵まれ、自然も感じられる住み良い「まち」です。また、令和6年3月より快速列車が停車することとなり、市民生活の利便性が大きく向上するとともに、駅周辺を中心とした開発が進み、人口も増加傾向にあります。

引き続き、本市のまちづくりの基本理念である「共生・協働」「安全・安心」のもと、各種施策を推進し、「住みやすさナンバー1のまち 八潮」及び「先端『健康』都市・八潮」の実現を目指してまいります。

はじめに

八潮市は、都心から北東約15km、埼玉県^{さいたま}の東南部に位置し、東は三郷市、西と北は草加市、南は東京都足立区・葛飾区にそれぞれ接している。

市内には、中川・綾瀬川^{がけがわ}・垢川^か・大場川^{おほの}・伝右川^{でんさ}の5本の1級河川が流れ、古くから水運が盛んであるなど、さまざまな面で河川の恩恵を受けてきた。江戸時代には、米や野菜の生産地として、江戸を支える食料供給地となっていた。

1956年に、八條、潮止、八幡の3つの村が合併し八潮村が誕生し、東京都に隣接していることなどから、工場の進出や人口増加により発展を続け、1964年に町制を施行、1972年に市制を施行した。

その後、首都高速道路の開通や、区画整理事業による都市基盤の整備が進んだ。2005年のつくばエクスプレス開業に伴って八潮駅が誕生、本年3月には快速列車が停車するなど交通利便性が格段に向上し、駅周辺をはじめとした開発が進むとともに人口の増加が続いている。

● 新庁舎完成

本年1月4日に新庁舎が開庁した。新庁舎は都市機能を集約し、都市活動の中心となるシビックセンターを形成するため、隣接する八潮メセナ（八潮市民文化会館・勤労福祉センター）や八潮中央公園と連携している。人々が集い、賑わいを創出し、人や文化、風景を繋ぎ様々なシーンが生まれる場所となることを

目指している。

新庁舎は、免震構造の採用や、床を高くするなど、浸水に対する備えをしており災害に強い構造となっている。また、省エネルギーに優れた、地熱を利用した空調機器、照明機器を採用するなど、環境に優しい庁舎となり、埼玉県内の庁舎では初めてエネルギーの消費量を大幅に削減した建物に与えられる「ZEB Ready」の認証を取得した。また、保健センターを併設するなど、種々の手続きの利便性を高めた。

2階には、「サークル広場」、「キッズスペース」、「多目的室」、「保健指導室」、「栄養指導室」を設け、市民の様々な活動の場となり、人と人をつなぐ「わ」が広がることが期待されている。

● 充実した子育て支援

八潮市は自然環境に恵まれているとともに、生活利便性が高いことから、子育て世帯の増加が続いて



新庁舎2階のサークル広場

八潮市概要

人口(2024年11月1日現在)	93,484人
世帯数(同上)	46,941世帯
平均年齢(同上)	44.8歳
面積	18.02km ²
製造業事業所数(経済構造実態調査)	740所
製造品出荷額等(同上)	4,371.8億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	574店
商品販売額(同上)	3,042.6億円
公共下水道普及率	79.8%
舗装率	87.6%

資料:「令和5年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- つくばエクスプレス 八潮駅
- 首都高速道路6号線 八潮出入口から市役所まで約1km

おり、市では子育て支援の施策を充実させている。

主な施策として、おおむね3歳未満の幼児と保護者が気軽に集い、交流を図れる「子育てひろば」を整備している。特に八潮駅高架下にある「やしお子育てほっとステーション」では、「子育てひろば」とともに子育てに関する情報の発信や悩みなどの相談を受けることができる「子育てコーディネーター」のサービスや子育て経験のあるボランティアが訪問し、育児を一緒に行う「ホームスタート事業」を行うほか、子どもの一時預かりなどを通じて子育てを支援する「ファミリー・サポート・センター事業」などを実施し、子育て支援の拠点として様々なサポート体制を整えている。

また、多くの保育施設が整備されており、一部の保育所では、家庭の事情により、一時的に保育ができない場合に子どもを預かる「一時保育」や、保育所の開所時間内に保護者の送迎が困難な場合、駅近くの保育所から入所中の保育所へ送迎する「送迎保育」を実施するなど、子育て施策が充実している。

🌻 バランスのとれた住みやすさナンバー1のまち

八潮市では、豊かな水、首都近郊という恵まれた立地を生かして、鮮度が高く品質の良い野菜が多く生産されている。生産される野菜の種類は多いが、地場を代表する野菜として小松菜、枝豆、ねぎ、ほうれんそう、トマト、ナス、山東菜、天王寺かぶを「やしお八つの野菜」としてアピールしている。また、八潮市には

金属製品、機械器具などの多くの工場が集積している。製造業の事業所数は、川口市、さいたま市に次ぎ県内3位とものづくりのまちでもある。

市内には、春に花桃や菜の花、秋にコスモスや彼岸花などが咲き、憩いの場として親しまれている「中川やしおフラワーパーク」(表紙写真)や、桜が有名で水遊びが楽しめる流水設備が整備された「八条親水公園」など多くの公園がある。また、「花桃まつり」や「八潮夜市」、「市民まつり」など四季を通じて様々なイベントが行われ、市民の交流の場となっている。

八潮市は子育てのしやすいまち、都市基盤の充実と自然環境が両立するまちとして、住みよさが評価され、前回2020年の国勢調査で人口増加率が県内2位となるなど、人口の増加が続いている。様々な施策に加え、単なる住宅都市でなく、農業やものづくりの基盤もあり、水辺などの自然に恵まれ、全体としてバランスの良い発展を続けている。(吉嶺暢嗣)



多くの人でにぎわう八潮夜市